

森林共同施業団地等の関係者による連絡調整会議及び現地検討会の開催

令和4年11月9日、岐阜県海津市の民有林と三重県いなべ市の悟入谷国有林にて、悟入谷・古野裏山地域森林整備推進協定の森林共同施業団地等関係者による連絡調整会議及び現地検討会を開催しました。

この協定は、平成28年に効率的な森林整備を実現するために、三重森林管理署と三重・岐阜両県の民有林関係者との間で締結されたもので、森林共同施業団地を設定し、民国が連携し路網整備を行うことで、効率的に人工林間伐、木材搬出が行われています。

今回は、協定関係者が森林整備の進捗などを共有する連絡調整会議と、それを現地で確認する等の現地検討会をセットで行いました。

三重森林管理署長の開会挨拶の後、三重署から協定区域拡張の検討状況や国有林野事業によるシカ捕獲状況について紹介させていただいた後、岐阜県西濃農林事務所から岐阜県の森林・林業施策についての紹介がありました。



連絡調整会議の開催状況（庭田山頂公園）

昼食をはさんで、午後は、次の3箇所の現地を確認し、意見交換を行いました。

1. 海津市徳田区 間伐・作業道作設箇所
2. いなべ市悟入谷国有林 エリートツリー植栽予定箇所
3. いなべ市悟入谷国有林 アニマルネット設置箇所

1. 最初に、海津市徳田区の間伐・作業道作設箇所において、間伐を担当した西南濃森林組合から説明があり、次に根尾開発から、既設森林作業道の崩土の整理や路面整備、かご枠工などの修繕についての説明が行われました。一部で他に迂回するルートもなく破砕帯で不安定な地質の箇所を通過する難しい施工で、出席者から施工方法等について質問が出されていました。この作業道は、徳田区の間伐材の搬出に使用される予定となっています。



海津市徳田区の森林作業道

2. つづいて、いなべ市悟入谷国有林に移動しました。この箇所には4.43 haに9,111本の植栽を予定しており、そのうちの一部に、スギ・ヒノキのエリートツリー（※1）苗や特定苗木（※2）を試験植栽する予定であることや、これらを植栽する意義、防護柵の仕様などについて紹介をさせていただきました。



エリートツリー植栽予定箇所（悟入谷国有林）

3. つづいて、2の比較的近くにあるアニマルネット設置箇所（いなべ市悟入谷国有林）を視察しました。これは、2と同様の植栽地ですが、防護柵が一般的なものと比べて設置コストをより縮減するため三重署で設置を試行したもので、設置費が1,729円/mと、現行の2,512円/mに比べ安く抑えられると試算しています。現地ではその耐久性や防護性能、支柱の一部に立木を使用していることについてなど多くの質問を受け回答しました。また、近畿中国森林管理局から参加した森林整備部長から、単なる防護柵の取組にとどまらず、低コスト省力造林全般や他の森林管理署で行われている様々な取組の事例をも織り交ぜながら広範な情報が紹介されました。



アニマルネット設置箇所（悟入谷国有林）

今年度は、関係者の情報共有に加え、限られた時間ではありましたが、国有林が行う低コスト省力造林などについても情報提供を行うことができました。また、森林共同施業団地が設定されて7年目となり、現地検討会のあり方等について関係者にアンケート調査を行い、今後、より関係者のニーズに応じた取組を検討していくこととしています。

※1 エリートツリー

地域の人工造林地において、最も成長が優れた機として選抜された「精英樹」のうち、優良なもの同士を人工交配により掛け合わせ、その中からさらに優れた個体を選抜したもの。

※2 特定苗木

特に優良な種苗を生産するための種子の採取に適する樹木であって、成長に係る特性の特に優れたものとして、農林水産大臣が指定する「特定母樹」から採取された種穂から育成された苗木。